

就労・復職支援3施設どこを選ぶ？

最後に、3つの施設の「強み」を挙げてください。

松田 BUCの場合、仕事の取り組み方、コミュニケーションや考え方の癖などを振り返るためのグループワークを多く実施している点です。その他にも、リワークプログラム修了者を対象とした、復職後の「フォローアッププログラム」の充実が大きな強みです。うちの場合は月3回土曜日に実施していて、復職後の悩みを相談できる場があることで、再発予防に大きな役割を果たしています。

森永 きらりの場合、楽しいリハビリ・プログラムが多いということが強みでしょうか。日常的な水準で、利用者同士で関わるプログラムが多いので、純粹に楽しさを感じられると思います。精神疾患によって人間関係にうまくいき、人と関わることで自分がつらいと感じている方が多く利用されているので、そうした方にも「人と関わる楽しさ」を思い出してもらえればいいと思います。

金森 ワークネットの場合はまず、他の就労移行支援事業所に比べて、専門職のスタッフが多いことが大きな強みです。また、スタッフ体制自体も他の施設に比べて厚いです。現状でいえば、利用者19人程度に対して、スタッフが8名もいますから、その分、手厚くケアできます。就職後の定着支援の手厚さ・きめ細かさも、どこにも負けないと思っています。

ありがとうございます。



取材と原稿／前原政之（まえはらまさゆき）
1964年栃木県生まれ、1年のみの
編プロ勤務を経て87年23歳でフリーに。
ライター歴33年。

就労・復職支援3施設のちがいは。

おなじ医療法人内なので、他の施設への移行はスムーズに行なえます。

一般就労

復職

復職支援 / BUC

バックアップセンター・きょうと

対象 うつ病、双極性障害、ストレス関連疾患により休職しており、復職のトレーニングや再発予防に取り組みたい方。

福祉的就労

就労継続支援 A型および B型をはじめとする、対価として工賃等が支払われる福祉サービスです（ここでの工賃は作業や訓練に対する報酬であり、一般的な賃金とは異なります。なお、A型は雇用契約のために最低賃金の保証がされています）。利用者の希望等に考慮して作業の内容や量を定める点が、一般就労との大きな違いです。就労継続支援 A型は労働契約を結びながら行う福祉サービスなので、一般就労にもっとも近い形の福祉的就労といえます。

就労移行支援事業所

障害者総合支援法に基づく就労支援サービスのひとつで、一般企業への就職を目指す障害者を対象として、就職に必要な知識やスキルの向上を目的とした支援を行います（事業所内の訓練や資格取得、対人面・就労面に関するグループワーク、インターンシップなど）。サービスの内容は事業所によって異なり、自分の目的に合った事業所を探して利用できます。就労定着支援を併設して、就職後の就労と生活面をサポートしている事業所もあります。利用できる期間は原則2年です。

医療法人 栄仁会 宇治おうばく病院

就労支援 / ワークネット

ワークネットきょうと (就労移行支援事業所)

対象 職場体験等を通して適性や自分にあった職探しを希望されている方、就職後に継続して働けるように支援を希望されている方。

共通して行うこと

- 健康管理 (病気の特性を知る)
- 日常生活リズム (決まった時間に家を出る)
- 基礎体力 (生活体力をつける)

就労支援 / きらり

リカバリーセンター・きらり

対象 いずれ仕事をしたいが今はまだ自信がない、何から始めたらよいか分からない、これからの人生の次のステップを考えたい方。

アルバイト 福祉的就労

就労移行支援事務所 働く以外の進路

ちょっと
まめ知識
用語集

一般就労

企業や公的機関において労働契約を結んで働く、一般的にポピュラーな就労形態です。労働の対価として、規定に基づいた賃金が支払われます。一般の雇用だけでなく、障害者雇用もこれに属します。業務の内容や量は、基本的に雇用者側が裁量します。